

技術職員ができる台風被害防止や近隣対策報告

蔵本技術部門
研究開発支援グループ

今林 潔 (Kiyoshi Imabayashi)

1. はじめに

徳島市国府町の徳島大学薬学部薬用植物園には、約800種類の植物を栽培しており、約130本の薬木や標本樹木がある。その中には15mを超えるものもあり、これらはたびたび台風で根ごと倒れ（図1）、ダイオウマツは強風で松葉や枝、約20cmの松かさ（松かさ）が道路に飛び、近隣に迷惑をかけている。

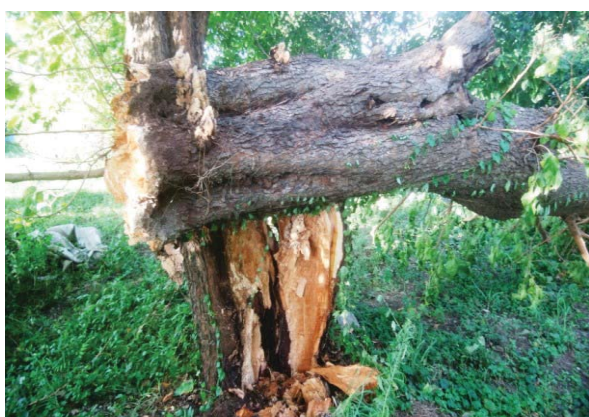


図1 台風による20m級クワの被害



図2 折れたクワの幹の処分

2. 方法

台風等の被害を軽減させるため、筆者が専門業者と打ち合わせを行い、限られた予算内で大胆な剪定等の予防策（図2、3）を講じている。また、落ち葉等の飛散防止のため、筆者がフェンスに100mの防風ネットを施工した（図4）。



図3 近隣対策に剪定するダイオウマツ



図4 100mの防風ネット

3. まとめ

昭和41年設立の本園は、今年で53年目になる。設立当初から植樹された薬木も多くあり、これらは徳島大学の財産でもある。筆者はこれらを災害等から守りながら、種子繁殖や取り木繁殖、接ぎ木繁殖、挿し木繁殖等の技術向上、植物の育成、保護、管理をしなければならない。また、近隣には迷惑がかからないように対策を施し、50年後、100年後を見据えた本園の運営をしていかなければならない。